

ごみを減らそう!!



京都市環境保全活動センター
みやこ **京エコロジーセンター** 開設!



index

◆特集

活用しよう! 京エコロジーセンター

～京都市ごみ減量推進会議として～

【座談会】京エコロジーセンターでどうする?

◆NEWS

伊藤さかえさんを悼んで、平成14年度総会ほか

◆行政からのお知らせ
建設工事に係るごみ減量

◆レポート
鴨川さくらまつりでイベントのごみ対策

◆会員探訪
聖護院学区ごみ減量推進会議・株式会社カンボ

◆ごみ調査隊
めぐるくん推進友の会「環境に関する意識調査」

平成9年12月、京都で開かれた「地球温暖化防止京都会議（COP3）」では、「二酸化炭素の削減目標として「京都議定書」が採択された。COP3開催を記念し開設された京（みやこ）エコロジーセンターは、環境学習、環境保全活動の拠点としての期待が寄せられている。

伊藤さかえさん、 どうかやすらかに

京都市ごみ減量推進会議理事を務められていた伊藤さかえさんが去る5月16日午後、逝去された。19日午後の告別式において高月会長は空き缶条例制定運動を通しての出会いのこと、環境問題、ごみ問題に主幹連合京都支部長として、先頭立って尽力されたことなど、哀悼の意を込めた弔辞を仏前に捧げられた。

1999年に地元金融機関から授与された「ヒューマン大賞」の副賞である50万円をごみ減量推進会議に寄付、「伊藤さかえ基金」となり、その一部でパソコン一式を購入し、推進会議のホームページ立ち上げが実現したことは記憶に新しい。



京（みやこ）エコロジセンターの概要を紹介する戸田センター理事長

平成14年度総会、閉幕 多彩な事業が承認

京都市ごみ減量推進会議の平成14年度通常総会が6月7日午後1時半から平安会館で開かれた。



伊藤さかえさんのご遺族があいさつされた。

総会に伊藤さかえ、逝去された伊藤さかえさんのご遺族ご臨席のもと、ごみ減設立以来の伊藤さんのご尽力に感謝すると共に、その功績を称え、ご冥福をお祈りするため、出席者全員で黙祷を捧げた。

総会では高月会長が「京都市のごみ対策は他都市より遅れているといわれがちだが、進んでいると評価されるよう、市ごみ処理基本計画の見直しにごみ減の意見を反映したい。京（みやこ）エコロジセンターの活用にもごみ減の力を注ぎたい」とあいさつ。引き続き、13年度の事業報告、収支決算、14年度の事業計画・収支予算、規約の一部改正、役員改選を原案通り議決した。

- ごみ減量推進に向けた意見交換会
京都市内のチエリストア協会加盟企業の環境問題担当者との意見交換会



古紙再生紙についてわかりやすくまとめられている。配布を希望される方は事務局まで

- ごみ減量推進に向けた意見交換会
京都市内のチエリストア協会加盟企業の環境問題担当者との意見交換会
- 地域ごみ減量推進会議の設立
砂川地域ごみ減量推進会議、音羽川学区リサイクル推進委員会、大塚学区

●ごみ減量推進に向けた意見交換会
京都市内のチエリストア協会加盟企業の環境問題担当者との意見交換会

- 再生紙利用促進キャンペーン実行委員会
啓発用冊子「古紙再生紙利用に向けて」（A4判しおり・無料配布）の作成

●ごみ減量推進に向けた意見交換会
京都市内のチエリストア協会加盟企業の環境問題担当者との意見交換会

●調査研究

- 買い物袋持参・簡易包装推進キャンペーン
京都市公設市場協同組合連合会、京都百貨店協会、京都生協、京都商店連盟、日本チエリストア協会関西支部とともに、簡易包装や、買い物袋持参運動を展開した。（平成13年11月20日、12月20日）同時に、地域ごみ減量推進会議の参加を得て、イズミヤ伏見店と西及山科店にて買い物袋・チラシ各1300枚を配布し、レジ袋削減を呼びかけた。（平成13年11月20日実施）
- フリーマーケットの開催
プラスチックネットワークを運営主体に、年間13回のフリーマーケットを開催した。出店は、毎回約160程度、来場者は平均1〜2万人。

平成13年度はこんなことをしました

を開催、簡易包装、買い物袋持参問題など、ごみ減量対策について話し合った。

平成14年度事業、幅広い活動でごみ減量へ

買い物袋持参・簡易包装推進キャンペーン、使用済みてんぷら油リサイクル事業のほか、ごみ減量講座、事業系ごみ袋の拡大など数多くの事業を計画している。とくに、京（みやこ）エコロジーセンターとの連携は今年度の大きな課題といえる。

リユースびん回収マップづくり、資源ごみ徹底作戦の新規事業にも期待したい。

エコライフ京都が、小冊子「どうする！生ゴミ」発刊

エコクッキングや生ゴミ堆肥化に取り組んできた、市民団体エコライフ京都が、基本的なテーマである「食の循環」のまとめとして小冊子「どうする！生ゴミ」を発刊した。京都市の生ゴミの現状をはじめ、アンケート調査結果、海外の事例、エコクッキングのレシピなど、盛りだくさんな内容。希望される方はエコライフ京都へ。

(TEL.251-1001) 一部200円



リユースびん検討チームがマップづくりなどの事業を企画中

再使用できるびんを容器にしたジュースを共同購入の販売ルートにのせるなどで実績をあげてきた「リユースびん検討チーム」が今年度いっそうの広がりを期して活動を展開する。

京都市が平成12年から実施している資源ごみ回収、缶・びん・ペットボトルの中に、「生きびん」と呼ばれる一升びんやビールびんの混入が目立つ。これらは酒屋さんに返すと洗びん業者に引き取られ、洗びん後メーカーへ回り、再使用される。

ごみを出さず再使用できる一升びんやビールびんを回収してくれる酒販店の情報を集め、MAPを作り、データとしてまとめる予定だ。

第2回こどもワークショップ「マンガをかくてごみをへらそう」開催

思いのままに画材を使い、マンガを描きながらごみのことや環境のことを考えようとする小学生を対象にしたワークショップが開かれる。先生は環境マンガの第一人者ハイ・ムーン氏。参加希望される方は事務局へ。7月27日（土）午前10時～午後3時、京（みやこ）エコロジーセンター3階・リサイクル工房（伏見区深草池ノ内町）、参加無料。

- ごみ減量推進会議、朱雀第四学区地域ごみ減量推進会議、榎原地域女性会ごみ減量推進会議、川岡地域ごみ減量推進会議、川東学区地域ごみ減量推進会議の7団体が発足した。現在47団体が活動。
- 市民向けごみ減量実践講座の開催
「京都市の地球温暖化対策とごみ問題」と題した講演やワークショップのほか見学会、エコクッキングなど講座3回を開催した。
- 使用済みてんぷら油リサイクル事業
地域ごみ減量推進会議の相次ぐ立ち上げに伴い、回収量が増加。平成13年度は124学区、693拠点において11万1884リットルを回収した。（平成14年3月現在）
- 古紙の集団回収のモデル事業
●地域での取組事例報告
●地域活動実行委員会において発表（北区、上京区のごみ減量推進会議）
●情報収集・提供活動のための事業
- 会報誌の発行
会報誌「ごみを減らそう」第16・17・18・19号の発行
- ごみ減量実践講座の開催
事業系ごみ対策を促すことを目的とした「エコロジーはエコノミー」ごみ減量実践講座」を企画し、講座5回と見学会1回を行った。
- ホームページの運用及び内容充実
（6月中旬実施）
- 事業系一般廃棄物用推奨ごみ袋の導入
アンケート実施を踏まえ、平成14年4月1日から45リットル入、低密度ポリエチレンのごみ袋を京都清掃業協同組合の協力により販売
- 秘密書類リサイクル事業
62事業所1団体の秘密書類約503トンを京都府紙料協同組合の協力で回収し、体制の強化を図った。



第1回市民向け講座（平成13年10月26日）

～建設工事に係るごみ減量に向けて～

京都市ではかねてより建設に関わる廃棄物の減量化に取り組んできましたが、このほどグリーンセンターや東部山間理め立て処分場に持ち込まれてきた廃棄物（以下「持込ごみ」という）のうち、コンクリートや建築廃木材などの受け入れを停止することになりました。

●建設リサイクル法をきっかけに

京都市は、廃棄物減量等推進審議会の答申「持込ごみの減量化に向けた今後の在り方」（平成12年11月）を受け、持込ごみにかかるごみ処理手数料への累進制の導入や、持込量の上限定額などに取り組んできましたが、そうした取組の一環として、また、平成14年5月30日より完全施行された「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（建設リサイクル法）」を契機に、建築リサイクル法で再資源化を義務づけられた廃棄物の受け入れを停止することになりました。これらは5月1日に告示、2カ月間の周知期間を経て平成14年7月1日（月）から実施されます。

●建築解体が変わります

これまで多くの建築物は、一気に壊すいわゆるミンチ解体の後、埋め立て処分されてきました。しかし、いろいろな素材が強さのためリサイクルできないなどの問題がありました。

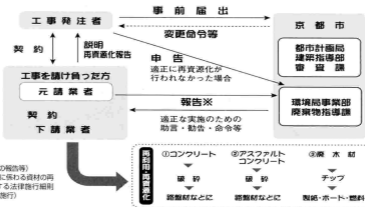
建設リサイクル法は、一定の規模以上の工事（表1）について特定建築資材の分別解体と再資源化を義務づけています。京都市では、建設リサイクル法に定められているコンクリート、アスファルト・コンクリート、廃木材の受け入れを停止します。ただし、再資源化がむずかしいと思われるもの（竹、建具、家具）または小片（1回の搬入量が200キログラム未満かつ1立方メートル未満）は引続き受け入れます。

表1：分別解体と再資源化が義務づけられる建設工事

工事の種類	規模の基準
建築物の解体	床面積の合計80㎡以上
建築物の新築・増築	床面積の合計500㎡以上
建築物の修繕・模様替（リフォーム等）	請負金額1億円以上
その他の工作物に関する工事（土木工事等）	請負金額500万円以上

※これらの規模にあてはまる工事を発注される方は、工事の7日前までに、必ず京都市（都市計画局建築指導部審査課）へ届出を行ってください。

●建設工事からリサイクルまでの流れ



※（再資源化等の報告等）
 京都市建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律施行細則（14年5月30日施行）

◆分別解体工事後は、業者の方から再資源化の報告を受けましょう。

●受け入れ停止によって進む、ごみ減量

持込ごみの約4分の1を占める建設系廃棄物がリサイクルへ誘導され、ごみの減量はいちだんと進むものと見込まれています。

お問い合わせ

解体工事等に関すること
 再資源化に関すること
 搬入に関すること

京都市都市計画局建築指導部審査課
 環境局事業部廃棄物指導課
 環境局施設部管理課

☎222・3618
 ☎213・0926
 ☎212・9820

鴨川さくらまつりで イベントのごみ対策への試み

今回は京のアジェンダとエコトーンとでエコまつりプロジェクトチームを組み環境対策を実施しました。

資源の分別回収を徹底

私たちは、4月5・6・7日に鴨川の三条から四条間の河川敷において開催された「第2回鴨川さくらまつり」において、環境負荷をかけない祭りを実現すべく、祭りの実行主体の実行委員会に参画している京のアジェンダ21フォーラムと準備段階からいっしょになって具体的な環境対策を提案し、実行した。この祭りは京都の観光誘致促進のイベントと位置付けられ、桜のライトアップをメインに、物産市や世界の屋台が並んだ。

今回は出展者に対し徹底した環境配慮に対する呼びかけが行え、結果的に排出される資源(缶、ビン、ペット、トレー、割り箸)を、ごみ分別ナビゲーターを配置し分別回収の徹底を行うにとどまった。

紙トレーを導入し、 分別を体験

大きな成果としては、祭りの場において環境に配慮した紙トレーを大多数の店舗に導入できたことである。この紙トレーは内側に燃やしても有害でないフィルムが貼っており、紙の部分はリサイクルされる。お客さんは分別ボックスの前で、自分でフィルムをはがし、分別を体験する。既存のトレーに比べ手間がかかるが、皆さん積極的に行ってくれた。私たちがもう一つ実行したのが、エコマネー「さくら」の導入である。この通貨は福引ができた、自転車タクシーの乗車券となる。これが大いにウケ、会場内の目立ったごみはゼロに等しかった。しかしエコマネーというよりは、福引券となってしまったのが現状である。

3日間で588kgのごみが 排出された

今回、京都府立大の山川肇先生と共にごみ調査を実施した。その結果、全体として



左側に、分別回収ボックスを設置（三条～四条間で2カ所）



食卓に使用された紙トレー



紙トレーはフィルムをはがしてボックスへ。



エコマネーさくら

の廃棄物は約588kg。そのうち資源は約215kg。資源分別協力率として会場の分別回収ボックスでは98.3%で、出展者から出された事業系のごみでは75.0%となった。今回設定した資源ごみ以外の廃棄物としては、生ごみやダンボール、外からの持ちごみごみが主であり、その中でも事業系のごみが大多数を占めている。

今回の鴨川さくら祭りをはじめとして大きなイベントは各方面で行われているが、多くの人が参加すること、楽しめること、ごみがすばやく処理されること、などの視点で評価されがちであり、どれだけ環境に負荷を与えているのかといった視点は軽んじられている。「祭り」だからと目をむるのではなく、こうした大量生産・大量廃棄が行われている場であるからこそ、責任を持ってごみ減量を進めていく必要があるものと考えている。そうした積極的な自主努力が「祭り」の場でも今後必要になってくるのではないかと。

そこでこれからエコトーンでは、祭りにおける廃棄物の調査をすると同時に、独自の環境対策マニュアルの作成していく。また、京のアジェンダ21フォーラムと協力してエコ祭りプロジェクトを発定させる予定である。これから皆様のお力をお借りすることもあると思いますが、どうぞよろしく。

分別回収されたごみのうち、燃えるごみと資源ごみは京都市が回収。紙類(トレーを含む)は株式会社回収。紙とわりばしは王子製紙へ郵送した。

「エコトーン」とは

移行行く社会の中で、持続可能な社会の実現のためのアプローチを地域においてさまざまな形で行っていくために活動する団体で、今回の環境対策は環境対策事業部が行いました。エコトーンは3月から活動を始めています。

TEL: 090-4207-1715

Eメール: kouhex@xb4.s0-net.ne.jp

会員探訪

聖護院学区ごみ減量推進会議

事務局所在地：左京区聖護院川原町11番地

TEL&FAX：771-2341

会長：今西恒子

設立：1998年2月（平成10年）

主な活動：

- ・使用済み天ぷら油の回収
（毎月第二水曜日・3拠点）
- ・環境学習の実施及び小学校へのお前
- ・施設モデル実施への協力等

質問に答えていただいた今西恒子会長



市民団体、事業者、各種事業者団体、専門家など、多様な顔ぶれで構成される京都市ごみ減量推進会議。今回も2団体の活動を取材しました。

取材：佐野美鈴（京都大学環境保全センター 大学院生）

聖護院学区

ごみ減量推進会議

Q「みんなで続けるごみ減らし」がテーマだからか？

A 地球温暖化防止京都会議が開かれた約2カ月後、平成10年2月、有志が集まり、地域の住民や事業者がみんなで協力しあってごみを減らし、地球環境を守る活動を進めることを申し合わせました。そのためには、地域を巻き込み、だれでもできて継続できるごみ減らしを始めよう、何より大切で。そこで、地域の方々と呼びかけて聖護院・川東・新洞学区ごみ減量推進会議が設立されました。その後、学区ごとに分かれましたが、その活動方針は変わっていません。

Q 使用済み天ぷら油の回収は順調ですか？

A 設立年の7月から始めた回収も、今ではすっかり地域に受け込んでいくように。毎月第2水曜日午前10時と11時の2つの拠点到員が立ちます。井戸端会議ならぬ油端ごみ減量推進会議に話が弾むことも、協力者は40、60名、回収量1カ月2トントリットル前後と、ともに活気づいてきました。ただ、最近では地域外からの参加者も増えており、今後回収量が増える予想も。業者さんに引き取ってもらう回収油は、E-オイルに生まれ変わるとごみ回収のバッテリー車燃料に使われているそうです。



精華女子中学校での「出前」環境学習



話も弾む使用済み天ぷら油回収の様子

Q 環境学習の出前もなされているとか？

A 学生さんと地域のみんなで環境問題を考えようと、毎年1回、京都精華女子中学校チャレンジクラスに出向いております。これまでのテーマは、使用済み天ぷら油の行方、再生紙を利用した名刺入れ作り、エコクッキング。

実践・体験しながらの学習は、中学生だけでなく、私たちも大変勉強になります。地域からの参加者は多いと、きで50名になったことも！昨年度のエコクッキングでは、捨てることなく素材を使い切ったパイとジュース作り。美味しいと好評でした。

Q プラスチック製容器包装の分別回収はうまくいってますか？

A 平成11年10月より、分別回収のモデル実施に協力しています。①食料品や日用品のボトル、②食料品のカップ・パック、③食料品の模倣付きや有色トレイ、④日用品のバック等容器、⑤発泡スチロール製緩衝材を分別し、実際にやってみると本当に大変！質問に来られた人と一緒に悩むこともありました。最近こそ、そんなことも少なくなりましたが、今でも分別表は離せません。このモデル実施で感じたことは、各

13年度総会



総会や会議は、いつも満席になる盛況ぶり

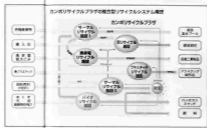
分別の理由も含めて、もう少し分かりやすくしないと、京都市全体に展開するのは難しいかなということ。それとも一つ、容器についているラベルやキャップ類、また、残った油分等を、取って洗うのが非常に手間であること。これは製造業者等の協力が求められる点だと思います。

Q 一年中、フル回転といった感じですか？

A 大忙しです！油回収のように通常の活動に加えて、「左京区民ふれあいまつり」や「消費者まつり」で活動紹介やアンケートを実施したり、また環境教育の出前だけでなく、自分たちも学習会を開いたり。今年度は11月に、見学を兼ねて、新しくできた京エコポイントセンターでの研修を予定しています。今後とも、地域のみんなと一緒に、楽しくエココトと活動を続けていきたいと思えます。



インタビューに答えてくださった
管理部長 中野 英夫 さん



株式会社カンポ

Q カンポとは？

A 「環境保全」を略して「環保（カンポ）」です。資源循環型社会の実現に貢献する当社の姿勢を、美しい地球の象徴としてロゴマークに表現。車、建物に、鮮やかなブルーの7本のラインで世界の七つの海を、下の6本の帯で六大陸を表現しています。

Q カンポリサイクルプラザについて？

A カンポと大阪府の機械機器メーカーとの共同出資により1999年に設立、2001年秋より稼働しました。以前から、カンポは資源循環型社会に目を向け、伏見区の本社を拠点に廃棄物の収集運搬、中間処理、再資源化事業に取り組み、破碎、選別、減容固化による固形燃料の製造、有価物の回収を行ってきました。

当施設の稼働により、サービスが拡大。現在、「サーマルリサイクル施設」と「廃家電リサイクル施設」が完成し、さらに「バイオリサイクル施設」、「プラスチックリサイクル施設」、「サーマルリサイクルII」、「灰浴融リサイクル施設」の計画施設が順次完成すれば複合型リサイクルシステムが構築できます。ごみの処理・再生だけでなく、その過程で生まれるエネルギーを様々な有効利用する次世代型のリサイクルシステムを計画しています。日本でも数少ない複合型施設に全国から見学に相次いでお越しになります。

Q 大きな煙突は、なんの施設ですか？

A 廃棄物を焼却し、焼却時の熱を回収するサーマルリサイクル施設です。廃棄物の物性に適した最新鋭の焼却炉を持ち、ダイオキシン対策も万全。焼却の際の廃熱は、バイオガスにより蒸気に変換するとともに、各リサイクル施設の熱源として有効利用しています。将来的には、周辺の温室や湯水プールへの供給を考えています。最大処理能力140トン/日のうち、稼働率はまだ65%ですが、高い処理能力が買われ、日本海の船舶事故で流出した重油処理やISU（いわゆる狂牛病問題）で発生処分となった肉骨粉の処理も持ち込まれています。環境安全と資源有効利用の観点から廃棄物それぞれの特性に合わせた最善策を選択したい。それが当社の姿勢です。当然、処理不能のもの、内容不明のものはお断りしています。

Q 家電製品がずらりと並んでますね？

A 廃家電リサイクル施設では、まず手作業で、そのまま再利用できるテレビのブラウン管や、冷蔵庫・エアコンのフロンガス等を回収します。その後破砕し、磁選機や手選別により有価物を回収。不燃物や異物を除去し、減容固化し、固形燃料（RDF）となります。回収したフロンガスは、サーマルリサイクル施設に送られます。フロンガスは熱処理されるときも、焼却炉の燃焼空気にして利用されます。複合施設の利点を活かした合理的な処理が可能です。

（この部分は上記のAの回答と重複するため省略）



入口ゲートの「環境監視盤」
はいじん（DUST）、窒素酸化物（NOx）、硫黄酸化物（SOx）、塩化水素（HCl）一酸化炭素の排出量とともに基準値を表示。

Q 自然に囲まれた施設ですね？

A 地元園町町の誘致を受け、地元住民の方々にご理解ご協力いただき、約66万平方メートルの広大な敷地に施設を建てることができました。地元の方々に安心していただけるよう、徹底した安全管理を行い、入口ゲート前には「環境監視盤」を設置し、周辺の環境データをリアルタイム表示しています。

Q 今後の展開について？

A 予定施設の建設は計画を推進し、複合システムの実現を環境管理です。また、昨年カンポ本社で取得した国際規格であるISO14001認証を、カンポリサイクルプラザにおいても導入したい。名実ともに、時代の先端を行くりサイクル事業を目指します。

株式会社 カンポ

本社集中管理センター：伏見区羽束師古川町233番地
TEL：933-6030 FAX：934-5491 <http://www.campo.co.jp>

創立：1968年4月5日
代表取締役：山田実

資本金：9624万円（グループ計5億744万円）

営業品目：産業廃棄物処理業、一般廃棄物処理業、再資源化事業、中間処理工場管理運営、排水管理・管理業、保安警備・建物管理、業務請負、一般区域買物運送事業

～ 環境に配慮した身近な取組 ～

家庭でこんな取組していますか？

めぐるくん推進友の会（山内 寛会長）は、2001年秋、環境に関する調査を行った。
その中から、ごみに関する5項目をご紹介します。

◆買い物のときに、買い物袋を持参していますか？

持参する	255
持参せず（ごみ）	103
持参せず再利用	389
その他	19
合計	766

◆生ごみの減量について何か行っていますか？

食べ残しせず	464
処理機を使用	22
処理機を検討	40
何もしない	240
合計	766

◆ごみの増加や処理コストの増大について、どのようにお考えですか？

行政の責任	84
事業者の責任	102
市民の責任	130
3者に責任	450
合計	766

調査対象年代

男子 327

女子 439

合計 766

◆本年4月から始まった「家電リサイクル法」について、どのようにお考えですか？

行政の負担	106
事業者が負担	332
消費者が負担	267
その他	54
合計	759



京都市ごみ減量推進会議会報誌 ごみを減らそう！No.20

発行：京都市ごみ減量推進会議事務局 2002年（平成14年）6月発行
〒604-8571 京都市中京区寺町御池
京都市環境局環境企画部循環型社会推進課内
TEL. 075-257-5053 FAX. 075-213-0453
E-mail gomigen@mbox.kyoto-inet.or.jp
URL <http://web.kyoto-inet.or.jp/org/gomigen/index.html>

企画編集：京都市ごみ減量推進会議広報活動実行委員会
委員長／寺島晃 副委員長／宮本尚江
実行委員／浅利美鈴・大塚真三・大橋正明・芝田直樹・田中真砂世・中島和子・西川敏光・前田純一・森田知都子・山本忠史

【入会のご案内】

京都市ごみ減量推進会議は、京都市のごみを減らし、環境を大切にしたいと暮らしの実現に寄与することを目的として、市民、事業者、行政により平成8年11月に設立した団体です。パートナーシップで多様な活動を展開中。京都市ごみ減量推進会議では、ともに活動する会員を募っています。

【会費】

市民（市民団体・消費者団体・環境団体等） 専門家（学識経験者等） 地域ごみ減量推進会議	1口1千円 （年間1口以上）
大学・マスメディア・事業者団体 企業等・行政	1口1千円 （年間2口以上）

詳細は、事務局へお問い合わせください。